

# GAIA の なかで、

# 土肥真人 さんと 仲間たち の

# 10年 を かんがえる

九州産業大学景観研究センター  
景観セミナー／レクチャーシリーズ  
2026 前期

僕が土肥真人さん（東京科学大学教授）と出会ったのは2013年12月中旬の週末、彼の4人の博士後期課程の院生が、そろって中間発表をするという場だった。土肥研の出身で、当時景観研究センターの研究員をしていた丸谷耕太さん（現金沢大学准教授）のお誘いに興味をもち、約4時間の発表と質疑に、まことに僣越ながら、参加させていただいた。このとき東工大（現東京科学大）では、第9回景観・デザイン研究発表会が開催されていた。そこをすこし抜け出して、同じ建物の上の方の階のゼミ室に、丸谷さんとともに向かったのだった。

僕は実のところ、このとき土肥さんのことはまったく知らなかった。うかつにも土肥さんが、ランドスケープ／コミュニティ・デザインからエコロジカル・デモクラシーへの展開の、我が国における中心的担い手であることについても無知だった。それでも土肥さんはその時、まったく見知らぬ僕の、たいせつな中間発表会への参加を、ごく自然に受け入れてくださった。彼の院生や、彼の京大時代の知り合いのコメンテーターも同様だった。僕の方は、そこでの議論の質と量の豊かさに圧倒された。自然的・社会的弱者からの視点が共通していて印象的だった。その寛容さに魅了された。それ以来、土肥さんとその仲間たちと、景観研究センターとの交流が始まった。

土肥さんは2016年10月にエコロジカル・デモクラシー（エコデモ）財団をスタートさせた。「自然を直すと社会が治る。社会を直すと自然が治る」というその理念と響く特徴的な活動を、土肥研の若い人たちと前年から発足させた。都市のホームレスの人たちを、夜中に歩いて知り、彼ら／彼女らに寄り添い、その実態を世に問う“ARCH (Advocacy and Research Centre for Homelessness)”、絶滅が危惧される渡り鳥・クロツラヘラサギ (Black-Faced Spoonbill) の国際的な協働のモニタリングをとおして、世界と環境の安寧のクリティカルな重要さの共有とコミュニティの育成をはかる“SPOON”などである。また2018年4月には共生的で幸福なまちづくりを支援する“世田谷コミュニティ財団”をつくり、2025年5月には多摩川流域で多摩川をよくする活動にかかわる人々に、多摩川に代わって感謝を表すという、ユニークな“多摩川感謝プロジェクト”を始めた。

本年10月にエコデモ財団は創立10周年を迎える。土肥さんは来年3月末で大学教授としての定年を迎える。IPCCの第6次評価報告書によれば、地球温暖化は疑う余地なく人間起源であり、その影響はすでに広範・深刻・不可逆的であるという。それにもかかわらず、近年、大国は国益のために武力と威嚇を公然と用い、地球生命圏と第二次世界大戦後の社会秩序の持続を危ういものにしていく。このときに、土肥さんとその仲間たちがこの間に取り組んできたことがらの意味をいっしょに考えたい。そうしていま僕たちにできることを、生き物・市民・学徒として、わずかでもあきらかにするために、今年度の景観セミナー／レクチャーシリーズを企画した。

みなさんのご参加をこころよりお願いします。

景観研究センター所長 山下三平

テーマ：GAIAのなかで、土肥真人さんと仲間たちの10年をかんがえる

## ■ 5月29日(金) 18:00-19:30

流域でつながる関係をかんがえる - 自然と関わる楽しさからひらく「心の流域」 -  
吉田 祐記 (一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団事務局)  
<https://ksu-keikanseminar2026f1.peatix.com>

## ■ 6月19日(金) 18:00-19:30

生き物とともにある社会をかんがえる - 渡り鳥がつなぐ世界とコミュニティ -  
所谷 茜 (熊本県立大学 共創の流域治水研究室 特任講師、Team SPOON)  
<https://ksu-keikanseminarf2.peatix.com>

## ■ 7月17日(金) 18:00-19:30

見えない存在を起点に、社会と都市を問い直す - ホームレス問題が問いかける社会と風景 -  
杉田 早苗 (岩手大学 農学部 地域環境科学科 准教授)  
<https://ksu-keikanseminarf3.peatix.com>

会場：対面 九州産業大学 23号館4階 景観研究センター 景観ライブラリー  
オンライン Teams ミーティング \*各回ともPeatixにてお申し込みください

参加費：無料